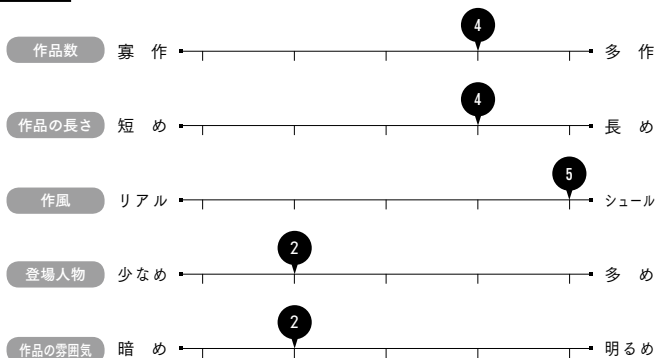


## DATA



## この作家が好きな人は、他にこんな本を読んでいます（作家名「作品名」）

- スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』村上春樹訳（中央公論新社）
- レイモンド・チャンドラー『ロング・グッドバイ』村上春樹訳（ハヤカワ・ミステリ文庫）
- カート・ヴォネガット・ジュニア『スローターハウス5』伊藤典夫訳（ハヤカワ文庫SF）
- レイモンド・カーヴァー『ささやかだけれど、役にたつこと』村上春樹訳（中央公論社）
- フランツ・カフカ『流刑地にて』池内紀訳（白水Uブックス）

## 代表作のあらすじ

## 『ねじまき鳥クロニクル』

失業中のオカダ・トオルがスパゲティをゆでていると、知らない女から謎めいた電話がかかってくる。次いで妻のクミコから電話があり、いなくなった猫を探しに、路地の空き家の庭に行ってしまう。そこには、遇れた井戸があった。その遇れた井戸は、ノモンハンの戦争に従軍した間宮中尉がかつて放り込まれた井戸と、時を越えて響きあうことになる。

とつぜん、今度はクミコが失踪する。トオルは空き家の井戸に降りていき、クミコとの関係を思い出すが、その井戸は、異界に通じていた。彼はあるホテルにいて、謎の電話の女に会い、そのあと壁を抜けて、井戸に戻ってくる。区民プールにいたとき、不意に、謎の女の正体を知る。トオルは闇の世界に閉じ込められている彼女の救出に向かう。そしてようやく、再び井戸の壁を通り抜けることが可能になる。彼は以前のホテルに辿りつき、最後の戦いが繰り広げられる。すると現実の世界では……。